令和５年１０月１０日

# 輸 入 粗 飼 料 の 情 勢

全　　略　　連
購買生産指導部
購 買 推 進 課

## 北米コンテナ船情勢

現在、北米西海岸航路は主要の乗継航路を含めて船積みは安定しています。北米西海岸出しの貨物については以前より物量が低下していることもあり、一部の船会社では１０月から北米西海岸とアジア間航路の一部で運航を当面の間休止し、他航路を経由することを発表しています。他航路を寄港することで、船足が長くなることから今後、本船スケジュールが後ろ倒しになる可能性もあるため動向には注視が必要です。

米国西海岸における北米西岸港湾労組（ILWU）と雇用主団体（PMA）の労使交渉は正式合意済、カナダ西岸港湾労組（ILWU　CANADA）と雇用主団体（BCMEA）の労使交渉については正式合意に至ってはいないものの暫定合意済となっています。

## ビートパルプ

【米国】

２３－２４年産ビートは各産地で本格的な収穫作業が開始されており、来春まで続く見込みです。今夏は乾燥した日も多く、生産量の減少が懸念されていましたが、その後天候に恵まれたことから総生産量については昨年並となる見込みです。

米国産ビートの需要については、米国乳価も好況期まで回復していないため、米国内からの動向に変化はなく、輸出向け需要も依然として低迷している状況です。

## アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは現在４番刈の収穫作業が終盤を迎えています。３番刈は収穫中に発生した降雨やカナダでの山火事の影響で日光が煙で遮られ通常以上に圃場での乾燥に時間を要したため、色褪せや過乾燥な品質が発生しています。収穫された４番刈の品質については半数近くで上級品となっています。

日本向けの市場は依然として産地相場を見極める動きが続いていますが、上級品発生が少ない影響で輸出業者が他国向けに買付を進めており産地価格は堅調に推移しています。

オレゴン州

主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは３番刈の収穫が終盤を迎えています。３番刈の品質については、降雨の影響で天候の安定を待って収穫された圃場では適期での収穫を行うことができず、刈遅れの品質や雨あたり品が多く発生しています。

産地相場は近隣州の上級品不足の影響で米国内の馬糧向けや中国や中東からの引き合いが増加していることから需要は２番刈比で堅調に推移しています。

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在６番刈の終盤戦で早い圃場では７番刈の収穫が行われています。産地では気温が冷涼になっており、今後収穫される７番刈の成分値は回復する見込みです。成分値が戻れば他国向けの需要が戻る可能性もあるため、産地価格の動向には注視が必要です。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、９月１５日時点でのアルファルファの作付面積は１２８，９５０エーカー（前年同期は１１７，１４６エーカー）と前年同期比１１０％と増加しています。

## 米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは２番刈の収穫を終えています。産地では多くの生産者が１番刈の収穫後に、豆類やとうもろこしといった換金性の優れる作物へ転作しています。２番刈の品質については上級品の発生が中心となっていますが、１番刈での上級品発生が限定的のため主に馬糧向けとして高値で取引されています。

## スーダングラス

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、２番刈の収穫作業が終了しています。８月下旬に発生したハリケーン「ヒラリー」に加え、９月上旬にも産地に降雨が発生し大きな雨当たり被害を及ぼしました。連続した降雨の影響で、収穫済のスーダンや収穫中の２番刈の多くが被害を受け、良品の発生は限定的となっています。これらの雨あたり品は輸出向けには適さないため、米国内の肥育生産者へ出荷される見通しです。

産地相場の低迷により一部の輸出業者によると来年の作付面積については減少する予想となっており、引き続き産地相場の動向については注視が必要です。

灌漑局の発表によると、９月１５日時点での作付面積は９，７７３エーカー（前年同期は２２，００２エーカー）、前年同時期比４４％となっています。前年比で作付面積

は減少していますが、日本の需要に対しては輸出業者も旧穀在庫を抱えているため供給力に懸念はありません。

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、４番刈の収穫作業が開始されています。収穫された４番刈の品質は８月下旬に発生したハリケーン「ヒラリー」や降雨の影響で収穫作業に遅れが生じたため、刈遅れ品の発生が多く輸出向け品質は限定的となっています。収穫作業が遅れた影響で、４番刈で生産を終了する圃場も多くなる見通しです。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、９月１５日時点でのクレイングラスの作付面積は２１，８７０エーカー（前年同期１９，６８５エーカー）となっており、前年同時期比１０７％と増加しています。

（９月に収穫されたクレイングラス　９月下旬撮影）

## バミューダ

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、バミューダヘイの４番刈の収穫作業が開始されています。バミューダヘイは米国内の馬糧向けや韓国向けに堅調な引き合いがあり荷動きは好調です。直近収穫されたものは、降雨の影響で乾燥に時間を要し刈遅れ気味で茎はやや硬めの品質が発生しています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、９月１５日時点の作付面積は６７，９１３エーカー（前年同期６５，７９３エーカー）と前年同期比１０３％の作付面積となっています。

## ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、２３年産のストローの生産が終

了しています。２３年産は例年より降雨が少なく生産量は大幅に減少しています。

## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州南部レスブリッジ地区では１番刈の収穫を終えています。２３年産の１番刈は収穫期の降雨も少なく天候に恵まれたことから上級品から中級品中心の発生となっています。２番刈の収穫も終盤を迎えていますが、一部の地域で降雨被害はあったものの中級品中心の品質が発生しており多くはカナダ国内向けに出荷される見通しです。

同州中部クレモナ地区では１番刈の収穫は終了しています。旱魃の影響によりカナダ国内の乾草も不足しており国内の需要は堅調です。

２３年産カナダ産チモシー レスブリッジ産９月中旬撮影
左：上級品　右：中級品

## 豪州産オーツヘイ

２３年産豪州産オーツヘイは西豪州で例年より早い８月下旬から収穫が開始され、他の地域でも順次開始されています。

西豪州では乾燥した気候が続いています。９月中旬にまとまった降雨がありましたが、生育期間を過ぎてからの降雨のため、収量の回復は見込めず昨年より単収は下回ることが予想されています。

東豪州では西豪州に比べ降雨量も少なく山火事が発生するほど乾燥した日が続いています。乾燥した気候の影響で豪州内の放牧草も不足しており、国内向けのオーツヘイ需要も堅調となっています。

### 中国向けの輸出について

中国政府は豪州全域の牧草加工工場２８カ所に対し中国への輸出を認可していましたが、令和３年２月末に２５カ所の工場で輸出許可が期限切れとなり、多くの輸出業

者で中国向けの輸出が滞っていました。当時、豪州では新型コロナウイルスの感染拡大を受け渡航者に対し入国制限を掛けたこともあり、中国当局が訪豪し直接的な現地視察ができない状況だったことが期限切れの理由となっています。

輸出認可について中国政府から９月２８日付で２５カ所の工場のうち２３カ所の工場で更新され、中国向けの輸出が再開されることとなりました。今後中国向けの輸出が活発化する見通しとなっており産地相場の上昇の一因になりえるため注視が必要です。

以上